

Graduation Policy (GP)	
記入者氏名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	国際理解教育コース
細分名	
教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。</p>	
教育学部の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と教育に関わる事象を、問題意識をもって思考、調査、分析することができる。 2. 自らの思考、調査、分析の結果を適切な方法で表現することができる。 3. 自らの専門において習得した知識や能力を、実践に活用することができる。 	
学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。また、教職を目指すものとして、自らの生き方について謙虚に反省できる人材を養成する。</p>	
学校教育教員養成課程の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の理念や教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。 2. 児童・生徒の心身の発達段階や教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。 3. 道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。 4. 参観・参加実習、介護等体験実習、基本実習、委託実習および事前・事後指導の経験を通して教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。 	
国際理解教育コースの教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際理解教育の歴史と現状およびその将来の可能性を認識する。 2. 異なる文化や価値観をもつ人々と共生していくことの意味を理解する。 3. 異文化学習の方法についての知識と技術を得る。 4. 国際化しグローバル化する社会の中で、文化の違いを超えて世界の人々と理解・協力しあい、公正な社会作りに参加しようとする姿勢を養う。 5. 国際理解教育を学校現場で指導できる人材を養成する。 	

国際理解教育コースの Graduation Policy (具体的に記述・箇条書き)

- 1．小学校教育および国際理解教育に関する基礎的な知識と技術をもち、児童に合わせてそれらを応用し、実践することができる。
- 2．自らのものとは異なる文化や価値観を認識し、それらを背景とする人々と意思の疎通をすることができる。
- 3．国際理解教育に関わる諸問題について、教育の視点をもって調査し、批判的に思考し、自らの考えを適切な方法で表現することができる。